

1293万円(10万6000ドル)

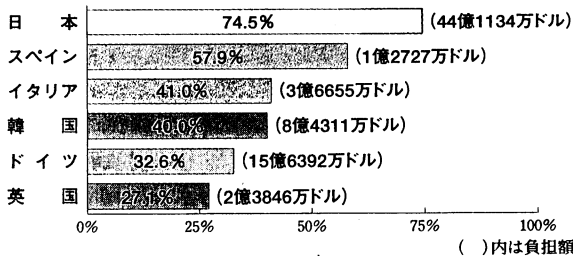


駐留米兵1人あたりの負担

341万円 (2万8000ドル) 日本
 266万円 (2万1800ドル) イタリア
 265万円 (2万1700ドル) 韓国
 265万円 (2万1700ドル) ドイツ

日本 イタリア 韓国 ドイツ

米軍駐留経費に占める同盟国の負担割合



世界一の気前よさ

米軍駐留経費負担

笠井議員が追及

「日本の米軍駐留経費負担額は、米国の他の同盟国二十六カ国を合わせた分よりも多い」。日本共産党の笠井亮議員が二十日の衆院予算委員会です。米国防総省「共同防衛に対する貢献」報告(〇四年版)は、日本が米軍駐留経費負担で米国の同盟国の中でも異常に突出した役割を果たしていることを示しています。

同報告は、米国防総省が毎年作成してきたもの。〇四年版は公表されているものの中では最新の報告で、日本を含め米国の同盟国二十七カ国を対象にしています。

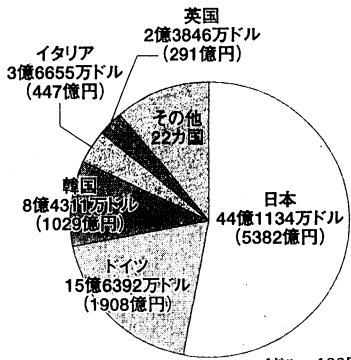
米兵1人あたり
 独・韓国 の5倍
 それによると、米軍が同盟国に駐留するのにかかる経費のうち、同盟国側が負担している額は、米兵一人あたりの十二倍、イタリアの五・二倍、英国の八・五倍で、日本を除く二十六カ国の米軍駐留経費負担額の合計(三十九億八千五百八十二万ドル)よりも多くなっています。

軍駐留経費負担額、〇二年分)は、日本がダントツで、四十四億一千三百三十四万(五千三百八十二億円、一ドル百二十二円で計算)に上ります。

ドイツの二・八倍、韓国の五・二倍、イタリアの十二倍、英国の八・五倍で、日本を除く二十六カ国の米軍駐留経費負担額の合計(三十九億八千五百八十二万ドル)よりも多くなっています。

他の米同盟国26カ国分より多い

米国の同盟国が負担する米軍駐留経費(2002年)



駐留する米兵一人当たりで計算すると、日本は十万人(千二百九十万人)の米兵が駐留しているのに対し、イタリアの三・八倍、韓国、ドイツの四・九倍になってしまっています。

米軍駐留経費に占める負担額の割合も、日本は74.5%とダントツ。米軍が日本に駐留するのに必要経費の約四分の三を日本が負担していることになり、米政府・軍の高官などが「日本はどの同盟国よりも最も気がいい」と繰り返し理屈を言っています。

光熱水料金から住宅まで負担
 日本の米軍駐留経費負担額は、米兵一人あたり約八千二百九十二万(千四百四十三億円)に上っています。



「思いやり」予算で建設された神奈川県逗子市の池子米軍住宅

米軍駐留経費負担額全体の大きさ(もちろん、財政支出を伴う「直接支援」の規模がけたはずれに大きい)のも、日本の特徴です。

「直接支援」額が二番目の韓国(四億八千六百六十二万)の六・六倍。NATO(北大西洋

条約機構)諸国の中では一番多いドイツ(二千八百七十七万)の百十二倍です。

日本政府は、駐留米軍への思いやり予算と称して、日米地位協定にも負担の根拠がない基地の施設建設費、基地従業員の労務費、光熱水料、基地提供のための民有地借り上げ料、基地周辺対策費など直接の財政支出を伴う「直接支援」額が三十二億二千八百四十三万(三千九百三十九億)▽国有地の提供、税金の免除などによる「間接支援」額が十一億八千二百九十二万(千四百四十三億)に上っています。

米軍駐留経費負担額全体の大きさ(もちろん、財政支出を伴う「直接支援」の規模がけたはずれに大きい)のも、日本の特徴です。

「直接支援」額が二番目の韓国(四億八千六百六十二万)の六・六倍。NATO(北大西洋

これらが「直接支援」額の規模を押し上げる結果になっています。